



ご来館の皆さまへ

お願い

- ・ペットの同伴はお断りしております（ただし盲導犬・介助犬・聴導犬は可）
- ・館内での飲食はご遠慮ください（熱中症対策の水分補給を除く）

西部3Rステーションではフードドライブ活動を行っています！

あなたのご家庭に食べきれずに余っている未使用の食品はありませんか？西部3Rステーションでは常時「フードドライブ」活動を行っています。ご提供いただいた食品は「特定非営利活動法人フードバンク福岡」を通じて、子ども食堂や福祉施設など食べ物を必要としている方々へ無償で配布されます。ご提供いただく食品は1点から大歓迎。これまで寄付の方法がわからず捨てていた食品を持ち寄り、支援の輪を広げましょう。

ご家庭で
余っている食品を
ご提供ください！



日時 毎日10:00～16:00※休館日を除く **場所** 西部3Rステーション2階受付
対象となる食品 未使用・未開封のもので、賞味期限まで1か月以上あるもの。
缶詰やレトルト食品、乾物、菓子、米、飲料、調味料など常温保存可能なものに限りま。

西部3Rステーションでは、各種体験講座を行っています。福岡市内にお住まいの方、通勤や通学をされている方なら、どなたでもご参加いただけます。みなさんも身近な3Rを体験してみませんか？

体験講座

すべて無料！

内容は変更する場合があります

牛乳パックで紙すき

毎日 10:30～15:30
所要時間30分程度
申込 随時



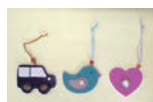
食品トレイでマグネットインテリア

毎日 10:30～15:30
所要時間30分程度
申込 随時



はぎれ(布・革)で作るストラップ

毎日 10:30～15:30
所要時間30分程度
申込 随時



身近なもので万華鏡

毎日 10:30～15:30
所要時間30分程度
申込 随時



廃油で“リサイクル”せっけん作り

水曜日 10:30～11:30
定員 10名/日（先着順）
申込 希望日の3日前まで



体験講座の申込方法

電話、または西部3Rステーションの2階受付で直接お申込みいただくか、①体験内容②住所③氏名④年齢⑤電話番号を明記のうえ、メール(seibuplaza2@f-kankyo.or.jp)、FAX(092-882-4580)にてお申込みください。

生ごみ堆肥相談会

生ごみの堆肥化でお困りの方は何でも相談ください。

■ふくおか環境倶楽部主催

日時 毎月第2・第4土曜日
13:00～16:00

場所／2F啓発コーナー

参加費 無料 **事前申込** 不要
※基材・テキスト購入可



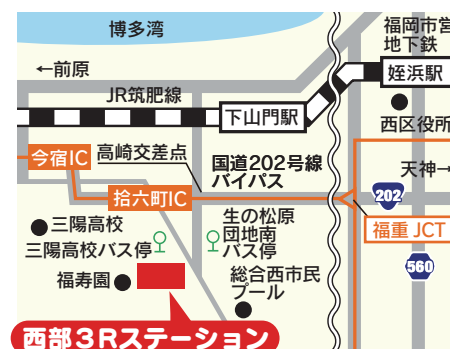
福岡市西部3Rステーション

開館時間 10:00～17:00
(衣類の持ち込みは16:00まで)

休館日 月曜日
(休日の場合は開館し、次の平日休館)

TEL 092-882-3190 **FAX** 092-882-4580
〒819-0162 福岡市西区今宿青木1043番地の2

**バスで
お越しの方**
姪浜・天神・博多方面より
西鉄バス「三陽高校前」バス停より徒歩約2分
西鉄バス「生の松原団地南」バス停より徒歩約5分
[西鉄バス情報] <http://www.nishitetsu.jp/bus/>



<http://www.fukuoka-seibuplaza.com> 福岡市西部3Rステーション 検索



西部3Rステーション季刊情報誌／2025年10月1日発行
編集・発行／公益財団法人 ふくおか環境財団



この印刷物は自然環境保護のために
植物油インキで印刷しています。

くるくる便り



写真提供：福岡市



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



街でのポイ捨てが海の生き物を苦しめる！？

—街のごみが川へ 川のごみが海へ—

私たちの暮らす地球は、その表面の約7割を海に覆われています。日本の周りも海に囲まれており、夏場には美しい砂浜で海水浴などを楽しむことができます。また、海で暮らす生き物たちは、川によって運ばれた森の栄養で育ち、そのおかげで私たちはおいしい魚や貝、海藻などを食べられます。

しかし、海の状態は天候にも影響を与え、時として津波や高潮などの災害が起こります。海とわたしたちの暮らしは密接につながっているのです。

そんな美しい海に、いま、問題が起こっているのです。

やっかいなごみ マイクロプラスチック



ごみで汚れた海岸を見たことはないでしょうか？

近年、その代表として海洋プラスチックごみが問題になっています。では、海にあるごみはどこから来るのでしょうか？ それらの多くは私たちの暮らす街中から来ているのです。ポイ捨てされたものや、動物によって散乱したごみなどが、雨や風に流されて側溝や川にいき、やがて海にたどり着きます。ちなみに、海に流れ込むプラスチックごみの約8割は私たちの暮らす街中（陸域）から発生していると言われています。

ペットボトルや発泡スチロールなどのプラスチックごみは丈夫で、なかなか分解されないため、川や海が汚れたままになってしまいます。特に5mm未満のプラスチックごみをマイクロプラスチックと呼び、一度海に出てしまうと回収が困難です。マイクロプラスチックは有害な化学物質を吸着することが報告されており、エサと間違えて食べた魚やその魚を食べる私たちにも良くない影響を及ぼすと考えられています。

どうすれば解決できるのでしょうか？西部3Rステーションでの取り組みを紹介します。

ポイント



博多湾ではよく緑色のマイクロプラスチックを見つけることができます。これらの中の一部は、もともと人工芝であったと推察され、ポイ捨てしたとは考えにくく、適切に使用していてもどうしても発生してしまうごみもあります。



拾ったマイクロプラスチック



出典:環境省 エコジン特集「海がプラスチックで溢れる!？」

西部3Rステーションの取り組み

#あしもとから

毎月15日は、「#あしもとから」と題して、環境団体、企業、校区などと協働で地域のごみ拾いをしています。海岸には街からきたらうペットボトルやカップ麺の容器、もちろんマイクロプラスチックも落ちていました。



#あしもとからの様子

FUNクリーンアップデー

毎年秋頃には、ダイバーさんや市民の方と協力して海岸と海中の同時清掃をしています。通常は拾うことができない海中のごみを掃除し、そのあとは、海をキレイにするアマモの種子団子を作り、海に投げ入れも行います。



FUNクリーンアップデーの様子

一度海に流れ出たごみは回収が大変です。だからこそ私たちは、ごみをごみ箱にきちんと捨てることや、街中に落ちているごみを拾うことで流出を防ぐことができます。ちょっとした取り組みで海をきれいにできるのです。みなさんもごみ拾いイベントに参加してみませんか。

ポイント 海の森「藻場」

藻場は、アマモやワカメ、コンブなどが茂る場所のことです。多くの生き物たちのすみかであり、水をきれいにする役割を果たしています。しかし、高度経済成長期に埋立や水質の低下などによって減少してしまいました。その減少した藻場を再生しようとする取り組みが各地で行われています。

また近年、藻場は新たな地球温暖化対策として注目を集めています。陸の植物が吸収するCO₂をグリーンカーボンと呼び、よく知られています。海においても藻場などの植物が海中のCO₂を吸収することが着目され、ブルーカーボンと呼ばれて注目されています。